

## インコの気持ちと私の気持ち

三年 濱田倅杏

僕はセキセイインコの「キンカ」という。人間とのふれあいは顔を指でカキカキされること、人間の鼻と僕のくちばしを合わせることで、名前を呼び合うこと、といったところだ。

人の手で触られることは得意ではないので毎回やめろと言ったりついたりしている。だが彼らは手を出してくる。最近は少しなら良いにしている。

人間の口から何か出てくると思っていると指にとまり、体をのばすと鼻を合わせてくる。口から食べ物を出してくれないので残念だ。指と吐息があたたくウトウトしてしまふことがある。

「キンカちゃん」とこちらを向いて呼んでくるので、僕の名前なんだろうと思つた。何度も呼ばれるので覚え、言えるようになった。言くと、毎回ほめられる。それが嬉しくて、たくさんほめてくれる人のところに行き「キンカちゃん」と言くと「上手だね。キンカちゃん。」と言われるので「キンカちゃん」と言う繰り返しをしている。

私はホオミドリアカオウロコインコの「キヨロ」という。ふれあっていることは体を触られること、手から食べ物ももらうことが主である。

ある人には顔回りを撫でられ、ある人には体を掴まれ脚の付け根や翼の裏を触られる。気持ちがよく目をつぶってウトリしてしまうときもあるが、それが痛かったり、触られたくなかったりしたら怒って噛みつく。噛みついてすぐは向こうの手の力は弱まるが、やめてくれないのに痛いと言って嫌な顔をされるのはなぜなのか。と思うことがある。

麻の実、人参、バナナなどは、大抵籠の中へ戻るときにもらう。見つけたら食べに行くが、気付いたときには籠の中に入っている。籠の外で遊ぶ時間が終わるのは悲しいが、美味しいものが食べられるのは幸せである。

インコのふれあっているときの気持ちを想像してみた。振り返れば、インコを飼わなければ考えもしなかったことばかりだ。

インコからは毎日癒やしをもらって、時にその賢さに驚かされる。家に迎えたことによつて、生活に楽しみを持つことができた。

人間と鳥の、言葉を介した会話はできない。そんな鳥と共に過ごしていくために、声色から、仕草から、どんなことを思っているのかを考えるのが大切である。そして、我々人間がそれらを受けとめるのもまた大切である。

キンカとキヨロに感謝している。大好きだ。